

自然を守ること、自然とともに生きること

私たちの愛知には山地から海岸へ変化に富んだ多様な自然があります。

人々はその自然を生きながら暮らし、モノづくりや農林水産業といった産業を発展させてきました。

例えば河川によって運ばれ、堆積した砂礫や粘土が作り上げた東海地方の丘陵地に見られる地質は、

「東海丘陵要素植物」と呼ばれる独特の植物を育む一方、全国有数の窯業を支えてきました。

シデコブシ(写真中央の木)は、そうした「東海丘陵要素植物」のひとつです。

この写真が撮られた瀬戸市内の愛知県有林は、水源地として保全されている森で、

シデコブシをはじめとした絶滅危惧種を含む貴重な自然環境が残されています。

森は、多様な生きもののすみかとなりながら、豊かな水を育み、私たちの暮らしを支えています。

写真は、「人と自然の共生」をイメージしたものです。

1

生物多様性の保全のために

生物多様性は、生態系、種、遺伝子の三つのレベルで多様性が確保されることによって保全されます。

そのためには、生態系ネットワークの形成や健全な水循環の確保を通じて、森林、緑地、河川、湿地などの自然環境に応じた動植物や生態系の保全をめざします。また、現に生存している種の絶滅を防止するため、希少野生動植物の保護も重要です。

■里地・里山・里海の保全と再生

人と自然の長年にわたる関わりの中で形成されてきた里地・里山・里海といった身近な自然の保全・再生・創出に取り組みます。地域の特性に応じた保全を講じるとともに、それに関わる人のネットワークを築き上げ、適切な維持管理や効果的な活用に取り組みます。

- ・あいち森と緑づくり税を活用した人工林の間伐、里山林の保全・活用
- ・水田などの多様な環境の保全（例）水田の生態系機能向上を図る「水田魚道」の設置 ・干潟・藻場の保全

■生態系ネットワークの形成

奥山から海に至るまでの水のつながりや森のつながり、ため池や森林などの様々な自然環境を緑地や水辺で結び、野生動植物が移動できる生態系のつながり「生態系ネットワーク」の形成に取り組みます。

- ・自然環境保全地域の新規指定と保全 ・自然環境保全地域などをコアエリアとするネットワークの形成
- ・あいち森と緑づくり税を活用したNPOなどへの活動支援 ・「いのちを支える森づくり運動」

■野生動植物の保護と管理

絶滅のおそれのある種の把握と保護や、農林水産業への被害が目立つイノシシなどの対策、移入種などによる生態系への影響を緩和する取組を行います。

- ・希少野生動植物種の指定と捕獲採取などの規制 ・農作物に被害を及ぼす有害鳥獣の保護管理計画の策定と被害防止対策の推進
- ・生態系に著しく影響を及ぼす恐れのある外来種の公表、放逐や植栽の防止の啓発